

# 不妊当事者による当事者のためのカウンセリング事業

The counseling enterprise for the party concerned by the party concerned with infertility

松本亜樹子 ○堀田敬子

Akiko Matsumoto Takako Horita

NPO 法人 Fine

Nonprofit organization FINE (Fertility Information Network)

Key words: 不妊, 不妊カウンセリング, 不妊当事者

: Infertility, Infertility Counseling, Sterile people

## 目的

不妊当事者の自助団体である NPO 法人 Fine (ファイン) では、不妊治療や不妊当事者の環境向上のために、当事者のニーズに応えながら、広く社会へ向けて提言や情報発信を行なっている。主な活動としてはウェブサイトの運営・管理、講演会・勉強会・イベント等の開催、公的機関・医療機関等への働きかけ、カウンセリング事業、会報誌・メールマガジンの発行、SNS の運営などである。今回は、これまでおこなってきたカウンセリング事業の活動内容をまとめなおす事により、その方向性を明確にする事を目的とする。また電話相談業務や今年度から新たに開始したピア・カウンセラーによる面接カウンセリングの相談事例の内容も分析対象とし、カウンセリング事業をより当事者のための援助として発展させていく為の検証をすることを目的とした。

## 方法

これまで実施した数々のアンケート調査や実際のカウンセリング業務の状況をまとめなおす。また、2007 年～2010 年までの電話相談事例 304 件を分析の対象とした。2011 年 5 月から開始のピア・カウンセラーによる面接カウンセリング事例 12 件も分析の対象とし当事者が抱えている問題を提示し、カウンセリング業務の今後の方向性を考察する。

## 結果

Fine 「設立準備アンケート」(2004 : 有効回答数 441 人) によるとカウンセリングが必要と答えた不妊治療患者の割合は、80% 近くにも及んでいる。クリニックでのカウンセリング体制は徐々に整いつつあるが Fine が実施した「医療スタッフとのコミュニケーションアンケート」(2009 : 有効回答数 412 人) では実際に、クリニックでカウンセリングを受けたと答えた人は少なかった。一方で Fine 実施の電話相談の利用件数は年々上がっている。地域別の利用も関東から徐々に地方へ広がっている。相談内容は気持ちをきいてほしい (64%) 気持ちや状況を整理したい (26%) 情報が欲しい (8%) 不妊体験者と話したい (2%) であった。ピア面接カウンセリングは 2011 年 5 月から、1 枠 45 分を月 2 回、計 8～10 枠行なっている。7 月には大阪、9 月には名古屋でも開始した。ネット・メルマガでの告知が中心

であるが、徐々に相談件数も伸びてきている。内容は治療の継続・終結、気持ちの整理など自らの気持ちを話し明確化し整理した上で今後の人生を考えていきたいとする事例が多くみられ、不妊治療を通して当事者たちが深く悩み、今後の生き方を模索している様子がうかがえる。

## 考察

NPO 法人 Fine では設立当初から大きな事業の柱としてカウンセリング事業を捉えてきた。不妊の辛さは、身体的・精神的・経済的・時間的負担を抱えることであり、なかでも負担が大きいとされる精神的負担を援助する事が大きな課題であったからである。不妊の不=負のイメージがあるがゆえに当事者は孤立感・孤独感を抱え込み、自らを否定しがちである。援助を求めることも容易には出来ないその当事者たちの心理状態に、同じ経験をしたピアだからこそ出来る寄り添い方がありと考へ、ピア・カウンセラー養成講座を実施し、ピアによるカウンセリングを提供してきた。身近にカウンセリング体制の整っていない地方のほうがニーズはあると思われ、更なる利用の増加が今後の課題である。また相談内容からピア・カウンセリングに求められているのは、ただ同じ立場の気持ちをわかって欲しいというだけではなく、その気持ちに寄り添いながら、一緒に人生を考えていくことでもある。傾聴のみのカウンセリングから一歩進んだ援助も求められていることを感じ、技術をもって対応していかなければならない責任のあるカウンセリングであるとも感じられる。養成講座では心理学理論・実習訓練も充実させており、当事者にとって有効なカウンセリングが受けられるような場の提供を行なっているが、今後はピア・カウンセラーの技術向上のための研修制度や勉強会などの開催も必要であると思われる。また全国の不妊当事者への支援の為、活動を広げていくことも今後の課題である。不妊当事者の精神的負担を少しでも軽くする事を目的に今後も活動を続ける所存である。

以上

## 参考文献

「子守唄が唄いたくて」(2007) ジャネット・ジャッフェ 他著 高橋克彦・平山史朗 監修 小倉智子訳 バベルプレス